B39 ケナガコナダニにおけるATPase活性と殺ダニ剤による阻害

○橋本知幸(日環センター・環境生物)・高田直也・本山直樹(千葉大・園芸学部)

ATPase activity and its inhibition by acaricides in *Tyrophagus putrescentiae*.

Hashimoto T., Takada N. and Motoyama N.

昆虫やダニ由来のATP分解酵素(ATPase)はある種の薬剤によって阻害されることが知られており、薬剤の作用機構との関係で興味深い、屋内塵性ダニ類ではほとんど知られていない。演者らはケナガコナダニを用いて、いくつかのATPase活性を調査した。ミトコンドリア画分においては、Na-Kイオン依存性ATPaseの活性が最も高く、MgおよびCa-Mgイオン依存性ATPase活性は相対的に低かった。このうちNa-K ATPaseについて数種薬剤による阻害を検討した結果、DDT、dicofol、cyhexatin、IBTAの各薬剤(0.1mM)において、平均値で30%以上の阻害が認められた。一方、fenitrothion、permethrin、安息香酸ベンジルはほとんど阻害しなかった。さらに、これらの結果をイエバエCSMA系、ナミハダニS系およびdicofol-R系で得られた結果と比較検討した。